



Red Hat Insights 1-latest

FedRAMP 準拠のリリースノート

FedRAMP に準拠した Red Hat Insights のリリースノート

Red Hat Insights 1-latest FedRAMP 準拠のリリースノート

FedRAMP に準拠した Red Hat Insights のリリースノート

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本リリースノートでは、FedRAMP[®] に準拠した Red Hat Insights アプリケーションとサービスに実装される最新の機能と改善点を重点的に取り上げます。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージをご覧ください。

目次

第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ	3
第2章 2024 年 3 月	4
2.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	4
第3章 2024 年 2 月	6
3.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	6
第4章 2024 年 1 月	7
4.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	7
第5章 2023 年 12 月	8
5.1. 製品全体	8
5.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	8
第6章 2023 年 11 月	10
6.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE	10
6.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	10
第7章 2023 年 10 月	13
7.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE	13
7.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX	13
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	15

第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ

Red Hat Insights は予測分析を採用しています。情報とデータを追加するたびに、よりスマートになります。関連する洞察を自動的に検出し、カスタマイズしたプロアクティブな次のアクションを提案し、タスクを自動化することもできます。Red Hat Insights を使用すると、お客様は Red Hat 認定エンジニアの経験や技術知識を活かすことができるため、事業運営に影響が及ぶ前に容易に問題を特定、優先順位付け、および解決できるようになります。

SaaS オファリングとして、Red Hat Insights は定期的に更新されます。定期的な更新により、Insights ナレッジアーカイブがリアルタイムで拡張され、ミッションクリティカルなシステムの安定性に影響を与える可能性がある新しい IT 関連の課題が反映されます。

第2章 2024年3月

- ブログ記事: [Red Hat OpenShift Service on AWS obtains FedRAMP "Ready" designation](#) (Josh Blaher 著、2024年3月15日)

2.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

2.1.1. Advisor

Advisor による新しい推奨事項

9つの新しい推奨事項が利用可能です。

- "hv_storvsc" ドライバーで実行する Hyper-V ゲストが一部ハングする、または Hyper-V ホストでメモリーが枯渇するとシステムがクラッシュする
- "quota=on" オプションを指定して gfs2 ファイルシステムをマウントすると、カーネルパニックが発生する
- libselinux の既知のバグが原因で Cron ジョブが失敗する
- CPU の x86-64-v1 および x86-64-v2 マイクロアーキテクチャーレベルが RHEL 8 および RHEL 9 で非推奨とマークされる
- 複数のプロセスが同時に同じ autofs パスにアクセスすると、autofs プロセスがクラッシュする
- 不要なファイルが含まれていると AD ユーザーで認証エラーが発生する
- LVM デバイス上で実行されているファイルシステムが多すぎると Leapp がクラッシュする
- plymouth パッケージがインストールされていない場合、convert2rhel を実行しても RHEL への変換は失敗する
- MD RAID 5 アレイの IO 操作は、カーネルのリグレーションのバグが原因で高 IO 負荷時に停止する

2.1.2. Inventory

カスタムの Staleness および削除

システム管理者は、カスタムの Staleness および削除設定を使用して、Red Hat Insights がシステムを Stale と見なし、インベントリーから削除するフラグを立てるまでに、システムが非アクティブである必要がある日数を設定できます。

デフォルトでは、システムが1日以内に Red Hat と通信しない場合、システムに Stale のラベルが付けられます。7日以内にシステムの通信がない場合は、Stale 警告としてラベルが付けられます。14日以内にシステムの通信がない場合は、Insights によりインベントリーから削除されます。この機能更新により、システム管理者は以下の設定を変更できるようになります。

- システムの Staleness は最大 7 日
- システムの Stale 警告は最大 180 日
- システムの削除は最大 2 年

Staleness and Deletion

Organization level system staleness and deletion ?

Keep or customize your organization's default settings using the options below.

System configuration [Edit](#)

Conventional (RPM-DNF) ? Immutable (OSTree) ?

System staleness ?

1 day ▼

Maximum: 7 days

System stale warning ?

7 days ▼

Maximum: 180 days

System deletion ?

14 days ▼

Maximum: 2 years

[Reset to default setting](#) ?

Save

Cancel

この機能は、[Inventory > System Configuration > Staleness and Deletion](#) で利用できるようになりました。

システムの Staleness や削除を管理するために必要なロールと権限の詳細は、[システムインベントリ](#)の表示と管理の [Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux](#) を使用したシステムの Staleness や削除の管理を参照してください。

変換前と変換後の互換性のある CentOS ホスト特定

Insights インベントリ内でホストを表示するときに、CentOS 7 ホストが Insights に登録されていて、変換前分析または変換タスクを実行できる互換性がある場合、システムを表示すると、システム名の下にシステムを RHEL に変換という視覚的なインジケータが表示されます。

Name	Group	Tags	OS	Last seen
digo-prod-cent73-0419-001 (Convert system to RHEL)	No group	0	CentOS Linux 79	Just now
vm-1	No group	0	RHEL 9.4	1 minute ago
rheq-ybdrwuka.test	No group	0	RHEL 8.0	2 minutes ago
rheq-ybdrwuka.test	No group	0	RHEL 8.0	2 minutes ago
rheq-embaywubi.test	No group	0	RHEL 8.0	2 minutes ago
rheq-hccgmjch.test	No group	0	RHEL 8.0	2 minutes ago
libvirt-rhel-9-4	No group	0	RHEL 9.4	3 minutes ago
rhe-vm-tasks-30d8e39f-ade6-4353-b0cc-e8d8f99c6e6 (Convert system to RHEL)	No group	0	CentOS Linux 79	5 minutes ago
vm-1	No group	0	RHEL 9.4	6 minutes ago

第3章 2024 年 2 月

3.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

3.1.1. Advisor

新しい推奨事項

2 月に、以下の推奨事項が追加されました。

- 高速なネットワークデバイスのホットプラグ/ホットアンプラグを使用した Azure で、RHEL ゲストがランダムにクラッシュします。
- 既知のカーネルバグが原因で、NFS マウントで RDMA を使用すると、カーネルメモリーリークが発生します。
- sshd 設定で "UsePAM" が無効になっている場合、セキュリティが低下します。
- 一時的なデバイスを既存の MD アレイに自動的に追加して戻す機能が有効になっていない場合、安定性が低下します。

第4章 2024年1月

4.1. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

4.1.1. Advisor

新しい推奨事項

Insights チームは1月に4つのリリースを行い、主にカーネル内のリスクの修正に重点を置く14の新しい推奨事項が Advisor に導入されました。

- 既知のカーネルバグが原因で、VMware ESXi ホストの vmxnet3 NIC ドライバーで NULL ポインター逆参照が発生すると、カーネルクラッシュが発生します。
- ルートファイルシステムは、スペースで終わるマウントポイント名がある場合に、再起動後に読み取り専用モードでマウントされます。
- 既知のカーネルバグが原因で、CIFS ファイルシステムが FQDN でマウントされると、カーネルパニックが発生します。
- 既知のカーネルバグが原因で、Transparent Huge Page (THP) を有効化するとカーネルパニックが発生します。
- **initramfs** の再生成後、**/usr** ファイルシステムと **systemd-219-78.el7_9.8** パッケージが別々にインストールされているシステムは起動できません。
- **systemd** のバグが原因で、孤立したセッションスコープの数が大きいと、メモリーリークが発生します。
- 既知のカーネルバグが原因で、**smartpqi** ドライバーを使用すると、ロックアップでシステムがハングします。
- シンボリックリンク **/dev/log** が見つからない場合は、ログを収集できません。
- カーネルバグが原因で、サーバー側の再起動時に NFS4 クライアントが応答しなくなることがあります。
- **candlepin** で長時間実行して失敗した **CertificateCleanupJob** が原因で、Satellite は **noon** の後に応答しなくなります。
- カーネルのリグレッションバグが原因で、NFS4 サーバーは、**NFS4ERR_DELAY** 応答による無限ループに陥ります。
- 重要なカーネルモジュールがないため、起動に失敗します。
- **winbind** サービスが実行されていない場合、Samba が **sssd** で期待どおりに動作しません。
- メモリーまたは **nproc** リソースが十分ではない場合、**httpd** サービスはスレッドを作成できません。

第5章 2023年12月

5.1. 製品全体

5.1.1. 公開済みのブログおよびリソース

- ブログ: [Simplifying CentOS Linux to RHEL conversions with Red Hat Insights](#) (Marty Loveless、2023年12月5日)
- ブログ: [How to convert CentOS Linux to RHEL with Red Hat Insights](#) (Terry Bowling および Bob Handlin、2023年12月5日)
- ビデオ: [Pre-conversion analysis for converting to Red Hat Enterprise Linux](#) (John Spinks、2023年12月5日)
- ビデオ: [Convert to Red Hat Enterprise Linux from CentOS 7 Linux](#) (John Spinks、2023年12月11日)
- ビデオ: [Red Hat Insights Inventory Groups](#) (John Spinks、2023年12月14日)
- ビデオ: [Red Hat Insights Build & Launch](#) (John Spinks、2023年12月19日)

5.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

5.2.1. Advisor

新しい推奨事項

Advisor では、6件の新しい推奨事項が利用可能です。

- [The kpatch fails to load on the system with isolated CPUs when the running kernel version earlier than 4.18.0-477.10.1.el8_8](#)
- [The Oracle database is running with an unsupported kernel](#)
- [The system will fail to create new processes anymore when there is no available ID to assign to the new processes](#)
- [Services that communicate through D-Bus return timeout when the D-Bus cookie overruns](#)
- [The squid service ran out of file descriptors and could not handle extra requests](#)
- [Bootting a system randomly fails when separating /usr filesystem with "nofail" option](#)

5.2.2. Image Builder

Image Builder で RHEL ライフサイクルの視覚化が利用可能に

Image Builder で RHEL 8 および RHEL 9 のサポートライフサイクルを視覚化できるようになりました。イメージビルドに RHEL 8 を選択すると、RHEL 8 および 9 の完全サポートを受けることができる残りの期間が視覚化されて表示されます。RHEL 8 の完全サポートは 2024 年に終了します。RHEL 9 を選択すると、2027 年まで完全なサポートを受けることができます。

- 1 Image output
- 2 Register
- 3 File system configuration
- 4 Content
 - Additional Red Hat packages
 - Custom repositories
- 5 Details
- 6 Review

Image output

Image builder allows you to create a custom image and push it to target environments.

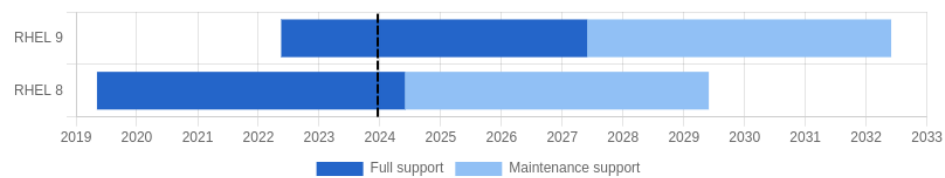
[Documentation](#)

Release *

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8

Hide information about release lifecycle

Release lifecycle



[View Red Hat Enterprise Linux Life Cycle dates](#)

第6章 2023年11月

6.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

6.1.1. ブログおよびリソースの公開

Red Hat Insights では、公式ドキュメントを補足するタイムリーなブログやその他のリソースを提供しています。

- ブログ: [Red Hat Insights turns smart statistics into machine learning](#) (Katya Gordeeva および Tomas Dosek)

6.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

6.2.1. Insights クライアント/RHC

Insights クライアントの Basic 認証のライフサイクル終了

2024年2月29日より、**insights-client** は、ホストを Red Hat Insights に接続するための方法として Basic 認証 (**authmethod=basic**) をサポートしなくなります。詳細および代替オプションに切り替える方法のガイダンスについては、[Red Hat Insights のライフサイクルおよび更新ページ](#) を参照してください。

6.2.2. 変換

CentOS 7 の変換前分析と変換エクスペリエンスの提供開始

2024年6月30日に CentOS Linux 7 はライフサイクル終了 (EOL) を迎えるため、ユーザーは、更新やセキュリティパッチ、新機能を引き続き受け取るために、新しいオペレーティングシステムに移行する必要があります。EOL 日が迫っているため、リソースを割り当てて完了日に間に合わせるには、移行の方針と範囲を決定することが重要になります。Red Hat Insights の最近の更新により、CentOS 7 ユーザーは次のことが可能になりました。

- CentOS Linux 7 システムを登録して Insights インベントリリストに表示できます。
- [Automation Toolkit > Tasks > Pre-conversion analysis for converting to RHEL](#) で新しい変換前タスクを開始し、選択した CentOS Linux 7 システムを分析して修復アドバイスを受け取ることで、RHEL への変換を複雑にしたり妨げたりし得る問題に事前に対処できます。
- 変換前分析で特定された問題を解決した後、[Automation Toolkit > Tasks > Convert to RHEL from CentOS Linux 7](#) で新しい変換タスクを実行し、RHEL への変換を完了できます。

Insights で変換タスクを実行した場合の出力例

System name	Status	Message
centos7-webinar	Success	Alert The conversion cannot proceed. You must resolve existing issues to perform the conversion.
>	Invalid kernel version detected	
>	Unsupported kernel modules	
>	Skipped action	
>	Outdated packages detected	
>	Excluded packages removed	
>	Skipping the custom repos are valid check	
>	Skipping the dbus is running check	
>	Repository file packages removed	

すべての Insights タスクは、[Automation Toolkit > Tasks](#) にあります。

これらの新機能を詳しく理解して使い始めるには、以下を参照してください。

- [Simplifying CentOS Linux to RHEL conversions with Red Hat Insights](#)
- [How to convert CentOS Linux to RHEL with Red Hat Insights](#)
- [Red Hat Insights を使用した RPM ベースの Linux ディストリビューションから RHEL への変換](#)

6.2.3. Advisor

新しい推奨事項がリリース

14 件の新しい推奨事項が利用可能です。

- [Separate the journal directories for better performance and recoverability of InterSystems IRIS](#)
- [Enable FreezeOnError for the integrity and recoverability of InterSystems IRIS database](#)
- [The system is unable to boot when missing systemd related components](#)
- [The insights-client BASIC authmethod will reach End-Of-Life on Feb 28th, 2024](#)
- [The /var/log/messages or /var/log/secure are not writable due to incorrect syslog configuration, file permissions or SELinux context](#)
- [The InterSystems product version is older than ideal for top-quality support](#)
- [Recommend running SystemPerformance 24-hour daily for InterSystems IRIS](#)
- [Kernel panic occurs when cifs filesystems are mounted on the RHEL 8 system due to a bug in the kernel](#)
- [Set arbiter to prevent a possible split-brain situation for InterSystems IRIS](#)
- [Map the Write Image Journaling \(WIJ\) disk for better performance of InterSystems IRIS](#)
- [Use G1 garbage collector to get better performance for JBoss server](#)
- [The system will boot into emergency mode when the os-release file is lost](#)
- [Applications failed to create sessions when the maximum session limit is reached](#)

- [It takes an unexpected long time for the system to boot due to a known bug in systemd](#)

InterSystems の新しいトピック

Red Hat Insights には現在、InterSystems ワークロードに利用可能な 10 件の Advisor 推奨事項があります。InterSystems の推奨事項は、Red Hat Hybrid Console の [Advisor > topics > Intersystems](#) にある新しい Advisor トピックにあります。Insights は、InterSystems に焦点を当てた推奨事項を、この新しいトピックに引き続き追加していきます。すべての Advisor トピックを表示するには、[Advisor > topics](#) に移動します。

6.2.4. パッチ

Satellite 管理ホストのパッチレポートの改善

新しい `-build-packagecache` フラグを使用して Satellite 管理ホストをチェックインできるようになり、インストール可能な更新のレポートが改善されました。フラグを設定すると、ホストは、システムが登録されている Satellite コンテンツビューで利用可能なコンテンツに基づいて、インストールする必要のある更新のリストをセルフレポートします。詳細は、以下を参照してください。

- Knowledge-Centered Service (KCS) の記事: [Red Hat Insights shows incorrect patch reporting for Satellite-managed systems](#)

6.2.5. Image Builder

既知の問題: npm が含まれている場合、Insights Image Builder は RHEL for Edge イメージをビルドできない

Insights Image Builder 内で RHEL 8 イメージをビルドする場合、`npm` パッケージを使用して RHEL for Edge イメージをカスタマイズすることはできません。NPM パッケージマネージャーは、その設定が `{prefix}/etc/npmrc` ディレクトリーにあることを想定していますが、`npm` RPM は、`/etc/npmrc` にリンクする `/usr/etc/npmrc` ディレクトリーにシンボリックリンクをパッケージ化します。この問題を回避するには、`OSTree` システム内に `npm` パッケージを含めます。

Insights Image Builder が aarch64 アーキテクチャー用のイメージのビルドをサポート

この Image Builder の機能拡張により、サポート範囲が `aarch64` アーキテクチャーまで拡大し、ビルドするアーキテクチャーを選択できるようになります。`aarch64` アーキテクチャー用にビルドできる互換性のあるターゲットイメージは、Amazon Web Service (AWS)、ベアメタル、およびゲストイメージです。

Windows Subsystem Linux (WSL) に適したイメージのビルドのサポート

Red Hat Insights Image Builder を使用して、Windows Subsystem Linux (WSL) に適したイメージを作成できます。そのイメージを使用して、Windows マシン上で Linux 環境を直接実行できます。ほとんどのコマンドラインツール、ユーティリティー、アプリケーションを使用可能です。カーネルは Microsoft によって提供され、WSL2-Linux-Kernel 上で開発されます。この機能は、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8 リリースでのみサポートされます。詳細は、[Create customized RHEL images for the WSL environmen](#) を参照してください。

第7章 2023 年 10 月

7.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

7.1.1. 全般

通知 UI の更新

以前は、通知は製品ファミリーごとにグループ化されていました。通知サービスは、単一の場所ですべてのイベントを設定できる Overview ランディングページと、イベントを表示するための別のページを提供するようになりました。

7.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

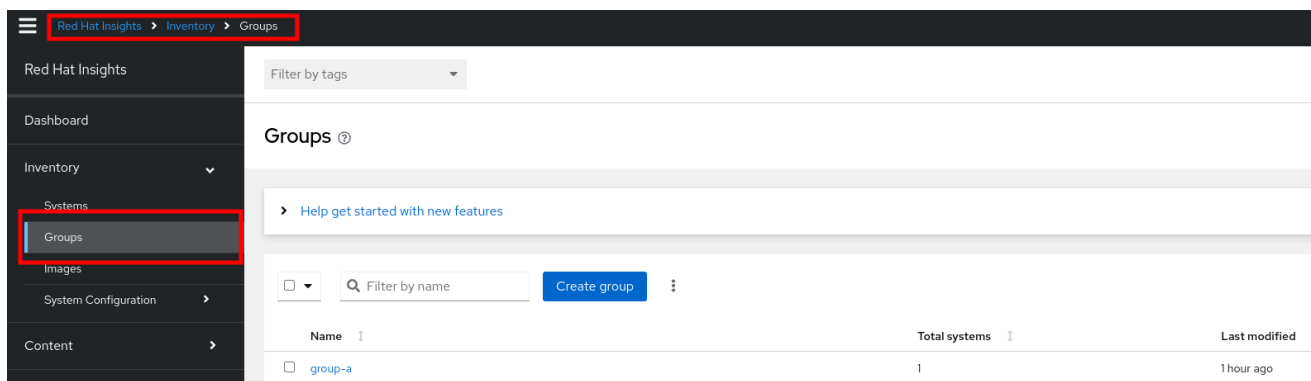
7.2.1. 公開済みのブログおよびリソース

- ブログ: [How Red Hat Insights tackles malware head-on](#) (Alessandro Rossi, 2023 年 10 月 13 日)
- ブログ: [A complete view of systems vulnerabilities using Red Hat Insights](#) (Mohit Goyal, 2023 年 10 月 24 日)

7.2.2. インベントリー

インベントリーグループが利用可能になりました。

[Inventory Groups](#) 機能を使用すると、インベントリーグループやシステムなどの特定のインベントリーオブジェクトに対して権限を設定できます。システムインベントリーをさまざまなグループに整理したり、各グループへのアクセスを特定のユーザーに制限したりできます。ユーザーアクセスを設定すると、それらのシステム権限はすべての Insights サービスで有効になります。



インベントリーグループの設定の詳細は、[システムインベントリーの表示と管理](#) を参照してください。

7.2.3. Advisor

新しい推奨事項が追加されました。

- Transparent Huge Pages が有効になっている場合、InterSystems IRIS サーバーのパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。
- InterSystems IRIS のパフォーマンスを向上させるために、**hugepages** の推奨事項を適用します。

- InterSystems IRIS のパフォーマンスを向上させるために、**shmmx** の推奨事項を適用します。
- i40e ドライバーを備えた Ethernet Controller X710 for 10GbE SFP+ を使用すると、RHEL 8.5 での DNS パフォーマンスが低下します。
- OS がグラフィカルターゲットモードで起動する場合、**tuned** は自動的に起動しません。
- e1000e ドライバーの既知のカーネルバグが原因でシステムがハングします。
- ファイル記述子が上限まで消費されると、アプリケーションの障害が発生します。
- **/etc/resolv.conf** ファイルに対する読み取り権限がない場合、**chrony** サービスは NTP サーバーのホスト名を解決できません。
- システム負荷が高い場合、**sendmail** サービスはメールを拒否するかキューに入れます。

7.2.4. 脆弱性

ユーザーは、エラータ/アドバイザリーがない場合でも、環境に影響を与える CVE を表示できるようになりました。

関連するエラータ/アドバイザリーがないものの、環境に影響を与える可能性がある CVE を表示して評価できるようになりました。この機能により、組織は存在する CVE をすべて把握し、リスクを軽減するために必要な措置を講じることができます。

エラータ/アドバイザリーのない CVE の詳細は、[こちらのブログ記事](#) を参照してください。

7.2.5. マルウェア検出

マルウェアシグネチャーの無効化/有効化機能

マルウェアサービスでは、ノイズを軽減し、重要で関連性のあるシグネチャーに集中できるように、環境に関係のないシグネチャーを無効にできるようになりました。

コンピューティングのフットプリントが拡大し、インフラストラクチャーを管理するリソースが縮小する中、この機能を使用することで、組織が重点を置くべき点をより適切な情報に基づいて決定することができます。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するフィードバックをお寄せください。いただいたご要望に迅速に対応できるよう、できるだけ詳細にご記入ください。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。

手順

フィードバックを送信するには、以下の手順を実施します。

1. [Create Issue](#) にアクセスします。
2. **Summary** テキストボックスに、問題または機能拡張に関する説明を入力します。
3. **Description** テキストボックスに、問題または機能拡張のご要望に関する詳細を入力します。
4. **Reporter** テキストボックスに、お客様のお名前を入力します。
5. **Create** ボタンをクリックします。

これによりドキュメントに関するチケットが作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。フィードバックの提供にご協力いただきありがとうございました。